1949年９月17日第三種郵便物認可　　毎月10日発行　第667号（通巻1171号）　　定価１部40円

創立1880年
YMCA
東京YMCA
2009 6 月号
発行所　東京キリスト教青年会　発行人　廣田光司
135-0016　東京都江東区東陽2-2-20　電話　03-3615-5562
URL http://tokyo.ymca.or.jp

東京ＹＭＣＡの使命
東京ＹＭＣＡは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

2009年度　東京ＹＭＣＡ会員部重点計画

東京ＹＭＣＡの使命を実現するために、社会から必要とされる活動を積極的に展開する。そのためには、東京ＹＭＣＡの使命に賛同し、主体的に活動を担う会員、会費によって支援いただく会員を増強し、また賛助会事務局との協働を通して、効率的な支援体制の確立を図り、一層働きの輪を広げる。

1．社会の課題に応える活動の開発と展開
地球規模で複雑化しつつある社会の中で、様々な困難な状況にある人たちと共に歩むために、課題を見出し、解決するための活動を研究・展開する。
①プログラム推進チームによる活動の開発と継続
・夏まつり（8／29）
・会員ソフトボール大会（10／12）
・連続シンポジウムの実施（11／28）
・視覚障がい者の方のためのプログラム（音読サービスなど）
・「歌声ひろば」合同親睦会の可能性の模索
②各コミュニティーセンターでの取り組みのモデルケースづくりと旗振り
・災害時のネットワークづくり
・バリアフリーマップ作成への取り組み
2．地域課題に応える活動の展開と推進
各コミュニティーセンターのある地域の課題に応える活動を、地域の諸団体との協力の中で展開する。また、会員部は引き続きその活動推進のために協力をする。
3．会員増強とボランティア活動の活性化
ＹＭＣＡの活動を支える会員の増強と、会員が参加できる多様なボランティア活動の場を設ける。
①会員増強小委員会を設置し、会員制度の見直しも視野に入れて、会員増強に取り組む。
②ボランティアビューローは定期的に開催せず、リーダーリクルートは各コミュニティーで行うこととし、今後ボランティア・ネットワークの構築を研究する。
③ミッションに基づく活動意義、活動内容について確認し広報に力を入れる。
・ＨＰの積極利用
・メール・マガジンの効果的利用
4．会員・スタッフ間の協働を通して、意識の高揚を図る。
東京ＹＭＣＡの会員として、帰属意識を高めるような場を提供する。
①会員大会の充実（5／23）
②交流の場としての夏まつりの開催（8／29）
③会員・スタッフが共通理解を持つための協議会（第3回ソシアス・フォーラム）の開催（10／23～24）
5．財政基盤の確立
①会員数1000名以上
②寄付金、助成金の得られる社会的意義のある活動の展開（ｌｉｂｙなど）
③会費のほか、寄付者の募集
・クリスマス献金や会員部の行う活動への指定寄付を募集

座談会
未来へ向かって――活発な会員活動すすめよう

5月23日に、第7回会員大会が開催された。発足から8年目を迎えた2009年度は「会員部3ヵ年計画」の最終年度となる。東京ＹＭＣＡの使命を実現するために『会員活動』の未来への期待や願いを、会員部運営委員長・小原武夫氏、前会員部運営委員・高橋伸氏、東京ＹＭＣＡ総主事・廣田光司氏の3人に語ってもらった。（司会＝広報室・小泉真由美）

―会員部が発足して、7年が経過しました。これまでに様々な会員活動が行われてきましたが、皆さんにとって、また会員組織である東京ＹＭＣＡにとって、「会員部」とはどのような存在なのでしょう?

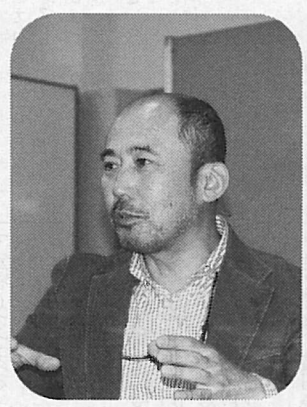
小原　私は現在、運営委員長の立場ですが、それは役割があるということで会員活動全体に関わっていますが、他の会員の皆さんは、それこそ各センターが誕生した時から、地域ＹＭＣＡを非常に大切にされていて、思い入れも強いわけです。ですから、ＹＭＣＡをサポートしている気持ちにもいろいろなものがあると思っています。

会員部は皆さんのその〝熱い思い〟を具体的にＹＭＣＡの願いに重ね合わせ、Ｙの働きに活かしてもらう場所だと考えています。しかし、地域のコミュニティーセンターの活動は知っていても、東京ＹＭＣＡ全体がいったいどういう組織であって、どのような働きがなされているのか、理解されにくいのが現状なのではないでしょうか。

高橋　私は大学生の時に、世田谷ブランチでボランティアリーダーをしていました。卒業してからも2年くらい続けていたのですが、会員というより、リーダーの1人のつもりでした。

ですから、会員部が発足した時には、その仕組みができていくのがスタッフの役割だと思うんです。多くの人々がつながって、全体がかもし出す力があれば、魅力あるプログラムがたくさんできて、会員活動も活発になってきますよね。それが本来の会員部の姿ではないかと思っています。

廣田　地域での会員の方々との関わりは、スタッフに解できたのは最近ですよ。運営委員として、みなさんと一緒にやっていくうちに、色々なことがだんだんと分かってきたような感じです。小原さんがおっしゃったように、会員のバックグラウンドはそれぞれです。色々な立場があって関わり方も様々。ＹＭＣＡの活動に対しても意識の違いとか温度差があるのは仕方がないと思います。本来は、「プログラムに人がつながっていく」のではなく、「人がつながってプログラムができていく」。それをつなげていくのがスタッフの役割だと思うんです。多くの


高橋伸・前会員部運営委員

Ｙでつながると新しい世界が見える

小原武夫・会員部運営委員長

―会員とスタッフで、それぞれ立場は違っても『つながること』をキーワードにＹＭＣＡが歩んできたことがよくわかります。

高橋　先日行われた、東京―フロストバレーＹＭＣＡ30周年記念の「リユニオン・パーティー」に、赤ちゃんから高齢者まで約100人が集ったのですが、みんなで『フロストバレーキャンプ』というひとつの話題で話ができるのですね。

今まで離れていた人々がＹＭＣＡを軸につながっている。老いも若きも共通体験があればつながることができると実感しました。

それは言葉であったり、ＹＭＣＡからのレターやプログラム、ＨＰ、メールであったりと、今は様々なツールを通じて、いつでもどこでもつながることが可能な時代になったんだなと思います。

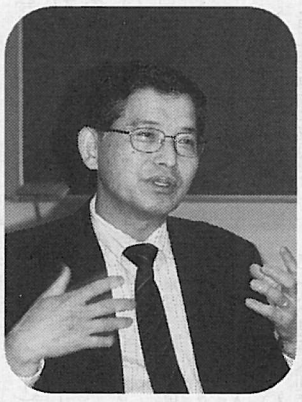
小原　そうですね。例えば、昔ＹＭＣＡで培った関係が、またどこかでつながって、世代を越えて、またＹＭＣＡにつながっていく場合もあります。会員部がいい意味での居場所作りになればいいと思っています。

高橋　若い時にＹＭＣＡに出会った人はともかく、40に、ＹＭＣＡを知ってもらえたら、心強いですね。

これからは会員部を中心に、ＹＭＣＡを知ってもらう〝場作りを担当して下さっているのが、高橋伸さんです（笑）。

定年を迎えた団塊の世代には、ＹＭＣＡは良い居場所になると思います。同時にワイズメンズクラブにも入会して頂いて、チャリティーランなどで今まで培ってきた分野で支援してもらえたら、心強いですね。

これからは会員部を中心に、ＹＭＣＡを知ってもらう機会をたくさん作っていかなければいけません。


廣田光司・東京ＹＭＣＡ総主事

―ＹＭＣＡと〝つながる〟と新しい世界が開ける！多くの人にそう思ってもらえることが大切ですね。

高橋　自分が今までＹＭＣＡとつながってきた意味を考えてみると、Ｙで『生き方』を教わったように思います。例えば、学生を卒業して社会に出れば、すぐ企業人としてやっていかなければならない状況にあっても、まず〝人としてどう生きていくか〟をＹＭＣＡで学びました。

私が仕事にしている「レクリエーション」は遊びのカテゴリーに分類されることがありますが、私はレクリエーションは生き方だと思っています。遊びを生活の中に取り入れて、自分の生き方を豊かにする。ＹＭＣＡはそれができるところです。ニュースポーツはＹＭＣＡが最初に紹介しているものが多いですよ。「あひるホッケー」というのがあるんですが、自分で体験して〝楽しい〟という感覚を身をもって教えてもらいました。大人として生きていくためのもやもやとした不安を、ＹＭＣＡが打ち消してくれた、そんな気がします。子どもが楽しむ。大人も楽しむ。そうして、みんながつながっているんだな、と感じることが大切です。では今の時代はどうか…となると、ちょっと考えてしまいますね。

小原　「ＹＭＣＡに行けば、何か楽しいことがある」今の会員部は、そのイメージが薄れてきているように感じています。学生がボランティアでリーダー活動をしている時は楽しかったけれど、会員になったら具体的にどう関わっていいのか分からないといった話を聞いたことがあります。会員組織の位置付けをきちんと認識してもらうためには、会員部としてもうひと工夫が必要です。関わる意義から感じるものを作り上げて、それを繰り返していくことが大切だと思います。

高橋　リーダーＯＢが集ってきっかけをつくるとか、何か新しいものを始めることができたらいいですね。

廣田　新しいプログラムとしては、南センターの「ＹＭＣＡすずらん会」（ＹＭＣＡに集って、懐かしい童謡や唱歌を歌う会）が大盛況ですね。あの発想は、会

（2面へ）

赤▽三角

ユダヤ人の政治思想家であるハンナ・アーレントは、行為を労働（ＬＡＢＯＲ）・仕事（ＷＯＲＫ）・活動（ＡＣＴＩＯＮ）の三つに分けている。その中で「活動」を最も重視しているのは、古代ギリシャのポリスでの「活動」を政治共同体の理想と考えていたからである。▼アーレントは著書『人間の条件』で、「複数性」に注目している。彼女はその「複数性」を生み出し、人を「人間」らしくするのが、公的領域における「活動」であると考えていた。▼ＹＭＣＡの「Ａ」はアソシエーションであるが、その語源は「仲間」や「仲間の集まり」であり、18世紀の西欧において、サロンや読書室での語らいから発展した。今日では「活動」を伴う市民結社というイメージが形成されている。▼ＹＭＣＡの使命は、「愛と奉仕の精神」にもとづいた隣人への「活動」であるが、アーレントが晩年を迎えて思考を転換したことが脳裏をかすめる。未完に終わった『精神の生活』で表わそうとした「思考し」「意思し」「判断する」ことのプロセスを、私たちは今一度、確認する必要があるのではないか。▼ボーダレスでグローバルな社会の創造が志向されて久しいが、現実に目を向けると、座視できない問題（格差・環境・人権等）が山積みしている。私たちには、共に生きる社会の構築のために、具体的な「活動」と熟考が今求められているのではないか。

（会員部　南宮成一）

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。